



写真-1 箱庭発表会風景（2025.1.31）

関係人口
との絆を
深める
【教育支援】

2024

里海資源利活用プロジェクト

実施者

《教員》千葉工業大学 先進工学部 生命科学科 五明研究室（教授 五明 美智男）

《参加者》千葉工業大学 先進工学部 生命科学科 五明研究室 4 年上村 優樹，飯盛 姫乃

《協働パートナー》

【学校】南房総市立富山小学校 6 年生，6 年生担任および関係教諭

1. 背景・目的

(1) 背景

東京湾に面する内房にある岩井海岸は、首都圏から近い波穏やかな海水浴場、対岸に富士山を望む風光明媚な場所として、また海岸背後の富山地域は、南総里見八犬伝の舞台の一つとして、南房総市の重要な地域観光資源となっている。しかしながら、2017 年の台風 17 号の高波浪による砂浜の浸食、冬季に吹く西風による飛砂、海岸背後の防風林の松枯れや荒廃などによる地域資源としての里海の環境の劣化も懸念されている。五明研究室では、2012 年の開設以来、海浜植物、漂着物、砕波帯を利用する稚仔魚などのフィールド調査を実施してきた。こうした海と陸の接点で得られる海の情報の地元へのフィードバックの一環として、最初に、里海資源の利活用を考える試みを 2018、2019 年度に行った。次に、その具体的な実践として、地域の子どもたちを対象に地元の海、地域の将来を考える機会（原体験）提供を 2020 年度から今年度まで継続してきた。

(2) 目的

本プロジェクトでは、①心理療法として利用されている箱庭を、子どもたちが将来を展望するための箱庭模型として準用し、環境学習、地域総合学習のコンテンツとすること、②小学校 1 年から中学 3 年生まで展開されている「富山学」の一部に組み込み、利用してもらうこと、③数年の実践の後に、小学校にて自立的に実施、展開できる段階に到達することを目的とした。

2. 活動内容

2020 年度からの箱庭づくりの実践の経過として活動内容をまとめた。

2020 年度（5 年生対象）：箱庭学習初年度として、大学教員が主体的にかかり、計 7 回の授業を実施した。大学での箱庭利用研究成果をふまえ、子どもたちの学習プロセスへの落とし込み検討として、「岩井海岸の情報提供と手法説明、箱庭づくりのコンテンツ検討 2 回，作成 2 回，発表，振り返り」で構成した。

2021 年度（5 年生）：箱庭学習 2 年目として、小学校での計画

を優先しつつ、大学教員の授業日回数は合計 4 回として実施した。初年度の実施状況をふまえ、コンテンツ検討，作成はそれぞれ 1 回にまとめた。一方で、夏休みの宿題としての岩井海岸見学，クラスでのまとめなど小学校独自のワークも実施された。

2022 年度（5 年生）：箱庭学習 3 年目として、小学校での主体的な活動として進めた。大学教員のかかわりは、動機づけ・手法を説明した初回授業と 2 回の発表への参加・講評（コンテンツ検討，作品）であった。

2023 年度（5 年生）・2024 年度（6 年生）：5 年生で実施されてきた箱庭学習が、6 年生での富山学のまとめの一部として展開されることになり、2023 年度は初回講義のみを実施した。さらに、協議・相談の上、2024 年度の箱庭づくりには、大学生 2 名が参加することとなった。大学教員は初回の打ち合わせ，発表会のみ，大学生 2 名は加えて 2 回の模型作成授業に参加し，子どもたちと同じように富山地域の将来を考えた模型を作成し，発表した。なお，発表会は，子どもたちの司会進行により，富山学のまとめの劇と本プロジェクトにより作成した模型の発表の二部構成で準備，実施された。発表会には，5 年生，市関係者，6 年生の総合学習に協力した地域住民，保護者も参加した。

2024 年度・手法としてのとりまとめ：参加した 2 名の学生は，それぞれ箱庭授業のマニュアル作り，箱庭授業実施のための副読本作りを，卒業研究として進めた。本ポスター作製段階で，それぞれ校正段階まで到達しており，学生作成の資料として小学校に提供する予定である。

3. 成果と課題

(1) 地域貢献面

小学校での学習状況を考慮した 4 年間の積み重ねにより，地域を対象とした総合学習のコンテンツとして，ある程度確立したものと考えられる。6 年生の総合学習に移すことによって，より効果的に利用された。また，今回の子どもたちの箱庭は，木箱の中に紙粘土と絵具を主材料として，自分たちで調達，工夫したものを副材料として作成されたものであり，グループ形式で相談し手を動かすこ



写真-2 箱庭作成状況（2024.11.29）



写真-3 箱庭作成状況（2024.12.06）



写真-4 発表会スライドより（2025.1.31）

域学協働の工夫！

- ★大学教員によるコンテンツの提供、利用のサポート
- ★大学生の関与（参加、同一学習、コミュニケーションなど）
- ★小学校による既往の総合学習への創作的取り込み
- ★複数年度による積み上げを可とした連携事業の環境

とを基本として継続したことで，総合学習としての富山学を進める上での一つの手法とし一定の役割を果たすことができたものと思われる。

(2) 教育・研究面

当初は，本プロジェクトを通した大学生の成長も視野に入れ，回を重ねるたびに学生の参加，学生によるファシリテイト，学生による授業等も考えていたが，新型コロナ禍の影響もあり不十分であった。しかしながら，最終年度に参加した大学生が箱庭授業以外でも子どもたちと交流を深めていたことを知り，また小学校の先生方から学生のかかわりに感謝の言葉をいただき，総合学習時間帯に大学生

*表彰・マスコミ掲載など

・令和 6 年度は特になし

がいること，同じワークを一緒にしていること，こうした場に学生を置くことの意義を再確認できた。

4. 総括

最終年度となる今年度は「ぼく私の考える，これからの富山～箱庭づくりを通して～」として，小学校作成の計画のもと進められた。振り返れば，コンテンツの提供と利用のお手伝いが今回の大学の主な役割であり，その後の自立的取り組みと展開まで発展したこと，後者に大学生が関与できたことで，当初目的まで到達できたものと捉えている。